1 2 月 1 3 日 (木)

(第 2 日 目)

平成24年第4回南関町議会定例会（第2号）

平成24年12月13日

午前10時00分開議

於 議 場

1. 議事日程

開会宣告

議事日程の報告

日程第1 一般質問について（1名）

① 10番議員

2. 出席議員は次のとおりである。（11名）

1番 井下 忠俊 君

2番 境田 敏高 君

3番 打越 潤一 君

4番 鶴地 仁 君

5番 田口 浩 君

6番 島崎 英樹 君

8番 山口 純子 君

9番 橋永 芳政 君

10番 唐杉 純夫 君

11番 酒見 喬 君

12番 本田 眞二 君

3. 欠席議員なし

4. 地方自治法第121条の規定により、説明のため出席した者の職氏名（13名）

町 長 上田 数吉 君 住民課長 木村 浩二 君

副町長 本山 一男 君 福祉課長 坂井 智徳 君

教育長 大里 耕守 君 経済課長 雪野 栄二 君

総務課長 堀 賢司 君 建設課長 大木 義隆 君

会計管理者 北原 耕治 君 教育課長 大石 和幸 君

まちづくり推進課長 佐藤 安彦 君 延寿荘長 福田 恵美子 君

住民課審議員 菅原 力 君

5. 職務のため会議に出席した事務局職員の職氏名（2名）

議会事務局長 松本 寛 君 書記 橋本 恵 君

開議 午前10時00分

-----○-----

○議長（本田眞二君） 起立。礼。おはようございます。お座り下さい。

ただ今から、本日の会議を開きます。

議事日程はお手元に配布のとおりです。

ここで1点だけ報告があります。

答弁充実のため住民課審議員の入室を住民課のほうから申し出がありましたので許可しましたので報告いたします。

-----○-----

日程第1 一般質問

○議長（本田眞二君） 日程第1、一般質問を行います。

発言の通告があつていますので、質問を許します。10番議員の質問を許します。10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） おはようございます。10番議員の唐杉でございます。ただいまより、一般質問をいたします。2件通告をしております。1件目は、道路修復に関して町長に対する告発状についてという件です。肥猪区で起きました本件につきましては11月14日付、朝日新聞・読売新聞に取り上げられ町民の関心をよんでいるところでございますけれども、事の真相は一体どうなっているのかと知りたい人もたくさんおられると思います。ここに告発状の写しを入手しておりますけれども、M氏は刑法247条背任罪で告発しておられます。背任は5年以下の懲役または50万円以下の罰金に処するとなっております。これは民事ではないので調停や示談もありません。有罪か無罪かということになります。もし、背任が成立すると大変なことになってしまうわけですから、そこで、実情はどうなっているのか議会議員の一人として町民に知らせる義務があると判断しました。そこで、被告訴人として、町がこの問題をどう捉えているのかについて、次に掲げる項目に対して質問の通告をいたしました。行政として簡潔に誠意をもってお答えをいただきたいと思ひます。

1つ、該件について監査委員は平成11年7月、町に約55万円の工事費のうち、私道部分に係る工事費の返還を求めておりますが、それを拒否した根拠を述べていただきたい。

2つ、監査委員は町民を代表して民間から1名、議会から1名で構成、選出されております。その勧告は重いと思ひますけれども、その点をどう考えるか。

3つ目、当該道路は修復工事ボードには町道肥猪3号線という写真記録が残っているけれども、私道ではないのか。

4つ目、新聞報道によると、背任罪で告発され、熊本地検は受理したとなっております。

事実関係がどうなっておるかを問いたい。

それから、産廃処分場施設の運用についてでございます。県は去る11月22日の全員協議会の席上、産廃施設の入札結果、施設概要の説明がありました。その中で遮水工底面は保護土2倍の100センチにして、シートの破損を防止する、あるいはシート接合部の検査には加圧検査、負圧検査など全箇所を確認する。覆蓋施設では中柱を34本から8本に削減し、さらに法面に根元を設置するという。それから、埋め立て作業性の向上、漏水リスクをそれによって低減させるということです。遮水、浸出水の処理施設では逆浸透圧処理方式とし、危機管理では浸出水漏れを目視で点検確認できるようにする。浸出水タンク内面にはゲンコートによって漏水を防止するなど我々がかねてより心配していた環境保全対策に少しの改善策が見られます。一方、同説明の中に環境保全協定書の素案作成については監視委員会の設置・検討が新たに盛り込まれております。これをどのように運営するのか疑問が残ります。

さて、私の質問の柱としておりますのは、産廃の入り口ベースの問題です。有害物の侵入だけは、どうしても防がなければならない。考えてもみていただきたいのは、もし有害物が多量に埋め立てるとなるとどうなるか、先日の全員協議会では毎日散水される循環水は1日100トンということでした。そして、洗い出された浸出水は100トンのうち毎日数十トンが処理施設で処理されることとなります。100トンが、なぜ数十トンまで減るのかについては、蒸発あるいは埋め立てられる産廃、保護土に水が保有水として含浸膨潤される、取り込まれるからでございますけれども、どのくらい減るのかは20トンか30トンか運転してみないと分かりません。もっと多いかもしれない。ところで、埋め立て産廃は毎日100トン入ってくるわけですが、そのうち何パーセントがこの水に触れると見ればいいのでしょうか。ご承知のように水は毎日累積されていく産廃の集団のうち、コンクリート片やガレキ類、木くずなど建設廃材のような、そういう大きな塊のところを流れ落ちるだけで、小さな塊、小さい粒子のところは通りません。しかし、これを県は毎日100トンの水を流すので、毎日100トン×365日×15年、約50万トンになるわけですが、それだけの水が流れるので産廃の水溶性の成分は十分均等に洗い出されると説明をしております。どうでしょうか、これが正しいのでしょうか。これは数字の平均の魔術にかかっているものであって、産廃の水洗浄には15年や20年に合計でどのくらいの水が流れようとも、実際には水が全く当たっていないところがたくさんでいることを知らなければなりません。そして、それについて県は説明をしております。それでは、どのくらいの量が水に当たらないままになるのか、私は大雑把にみて半分程度は水に当たらないとみております。半分というと20万トン、40万トンのうちの20万トンにもなります。数字だけが独り歩きすることは避けなければなりませんけれども、県はこの数字を出していません。菅原審議員も、あるいは木

村課長もご存じだと思いますけれども、出しましたでしょうか。出していません。なぜ出さないのか。これは生のままの産廃が少しでもあると、浸出水で有害物が除去されるといふ説明がつかなくなるからでございます。仮に20万トンとしますと、この20万トンは生のままで生き埋めになったままです。県は水で洗うので有害物は残らないと言っています。また、有害物がなくなるまで水を流し続けると言っていますが、たかだか1000トンの水を何十年流しても生き埋めになっているところは依然として生のままです。つまり県は平均値の論理で実態をごまかそうとしております。これが、ごまかしていないというのなら埋め立てて5年経ったものを掘り返して混合して、そして浸出させてみれば分かることです。とんでもない濃度の高い値がでることは間違いないことです。産廃に関する憲法であります廃掃法、これは廃棄物の処理及び清掃に関する法律というのを略して「廃掃法」といいますけれども、その廃掃法の中でも、もう一度、この産廃をでんぐり返して分析しなさいとは書いておりません。廃掃法はしょせんは地元住民の味方にはなっていないということではないでしょうか。

さて、前置きが長くなっておりますけれども、処分場建設が決まった段階の今後は住民を守ってやるのが我々のせめてもの役割ではないでしょうか。生き埋めになる生の産廃に有害物を少しでも少なくしてあげなければならない。そのためにはどうすればいいかを、役場、議会、一体となって死ぬ気で考えなければならないと思います。これから先は、ある意味では利害関係が対立する県の言いなりではいけないと思います。今回通告しているのは、地元、町が安全に対し是非考えなければならないことでありますけれども、以下の疑問点を正したいと思います。

1つ、県は運用にあたっては環境の保全に万全を期すというけれども具体的にどういうことか。これは平成23年2月17日の全協の資料でございますけれども、また、事業団と町は立場は明らかに違って参ります。町は自主的運用をどう考えておるかということです。その1つとして

イ．監視委員会の役割。地元住民としての立ち入り権。混載品の合否判定基準。疑問物質の精査などをどう考えておるか。

ロ．発生元、品名、積み込み、保管場所等の情報の予知、情報の公開、情報の共有についてはどう考えておるか。

ハ．溶出試験方法、マニフェストと現品の相違判定方法。

ニ．埋立場の受け入り検査場所のスペースはあるのか。方法はどうか。不合格の措置方法はどうか。

これら、4つの項目はいずれも産業廃棄物を受け入れるにあたっての危ないと、このへんはもっと考え方が欲しいというようなところでの質問でございますので、よろしくご答弁をいただきたいと思います。あとの質問は自席にていたします。

○議長（本田眞二君） 10番議員の質問に対する答弁を求めます。町長。

○町長（上田数吉君） あらためまして、おはようございます。ただいま質問をお受けいたしました10番、唐杉議員の道路修復に関する町長に対する告発状についてのご質問にお答えいたします。

平成24年11月4日の読売新聞に、11月6日に南関町が不当に公費で私道を修復したとして、当町の住民が上田町長と総務課長ら職員4人を背任の疑いで熊本地検に告発したと新聞報道がございました。その後、熊本地検から本町または告発を受けた職員に何らかの通知があるものと思っておりましたが、いまだに訴状の通知ともありませんので事実関係についてはお答えする状況にはありません。

次に平成21年4月に肥猪で発生した納屋火災にともない、私道を公費で修復したことに対しまして、平成23年7月に南関町監査委員から私道部分に係る工事費の返還を求める勧告につきましては、町といたしましては消防活動によって損傷生じた場合は町の責任で修復すべきものと判断をし勧告にはしたがっておりません。

次に、監査委員の勧告については、監査委員の使命からして当然重いものと考えているところでございます。

その後、平成23年9月に損害賠償請求住民訴訟がまた地方裁判所に提出され、係争中の事件でございます。これまで平成23年11月に第1回の口頭弁論から平成24年10月の第7回の口頭弁論が行われておるところでございます。なお、熊本地方裁判所において公判中の事件でありますので、事件の詳細についてのご質問には、答えることを差し控えさせていただきたいと思っております。

次に、産業廃棄物処分場問題、施設の運用についてのご質問でございます。この問題は県の運用にあたって環境保全保持に対する質問であると思っております。一昨年9月に県に対して住民の施設計画に対する不安や不満が取り除かれなければ当然導入することはできないと、全国的にもないような安全・安心施設を提案すること、県としてはこうした将来に対する不安にどのように答える考えがあるかとの申し出をしております。その後、県はクローズド無放流型という施設構造の採用、また11月には知事が現地入りされまして直接住民に施設の必要性や安全性についてを説明され、さらに12月には町の申出書に対する蒲島県知事の親書をいただいております。その中に議員の質問にあった県として判断した以上は、今考えている最大限の知識と技術を生かして極限まで施設の安全性を追求するとともに、施設の運用にあたっては生活環境の保全には万全を期して建設させていただきたいという考えをもっておられますとの回答がありました。県の基本的な姿勢は昨年8月に町が県及び熊本県環境整備事業団と締結した処分場の建設および運営に関する基本協定書の県の責務に廃止後も将来にわたり最終的に責任を負うと明記されているところでございます。具体的な環境保全に対する取り組みを確認するこ

ともありますが、まずは町政を預かる者として、こうした県の安全性に対する基本的な姿勢が提示されているというか大所高所から極限見極めていく、確認していくことが何よりも重要であると考えております。また、基本協定書には町の責務として地域の生活環境が保全され、地域住民の安全が確保されていくことを確認することが明記されております。さらには県、事業団及び町で地域の生活環境の保全のために処分場の建設及び、運営の監視を行う委員会を設置することも明記されております。今後、委員会を設置し建設時点から地元住民にも入っていただきまして、施設の安全性を確認してまいりたいと考えております。最後の質問につきましては、担当課長よりお答えいたします。以上、お答えいたしまして、この後の質問につきましては自席よりお答えさせていただきます。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 住民課審議員の菅原でございます。

2番目の産廃処分場施設の運用についての個別の質問についてお答えさせていただきます。

まず2の監視委員会の役割、地元住民としての立ち入り権、混載品の合否判定基準、疑問物質の精査等をどう考えるかというご質問でございます。まず監視委員会の役割、地元住民としての立ち入り権はというご質問についてでございます。監視委員会という名称は南関町が監視委員会という名称とするかは分かりません。名称につきましては現在、県と協議中でございますが、この委員会は地域の生活環境の保全のために、処分場の建設及び運営の監視を行うことを目的として設置するものでございます。その役割といたしましては、まず第1に関係者が直接監視して安全性を確認すること。第2に昨年8月に締結しました基本協定書の第8条に基づきまして積極的に情報公開をすることを求めること。それから第3に地域住民の皆様が安全性を十分に理解してもらうことがあると考えております。また、来年夏ごろには、工事着工を予定されておりますが、工事の施工状況の確認そして供用開始後には施設の受け入れ態勢や受け入れ廃棄物などの確認というかそういったところも予定しているところでございます。現在、工事着工前に委員会を立ち上げることを目指して県と協議を行っており、委員として地域の住民の代表者の方にも参画いただく予定ですが、立ち入りにあたっては委員本人だけでなく、地域住民の方々にも広く参加いただけるように要望したいと考えております。施設の安全性をできる限り直接ご確認いただくことで、ご安心いただけるのではないかと考えております。今後とも町や地域の皆様にご安心できるよう、安全な施設運営を監視できる体制づくりに向けて県及び関係者と協議して参りたいと考えております。

つづきまして、混載品の合否判定基準、疑問物質の精査等をどう考えるかというご質問でございますが、これから、この後の質問、ロ、ハ、ニにつきましてはちょっと専門的な内容が含まれております。町の考えもそうでございますが、まず事業主体であります

事業団、県がどのような考えでこういったことになっているかということを確認をしておりますので、その内容についてお答えさせていただきます。混載品の合否判定基準、疑問物質の精査等をどう考えるかと。産業廃棄物の中には産業廃棄物が一体不可分に混合されているシュレッダーダストや建設工具の廃棄物もあります。熊本県産業廃棄物指導要綱等の処理施設の維持管理に関する基準では一部の廃棄物及び車両の荷台に仕切りを設ける場合を除き、基本的には廃棄物の混載を禁止しております。廃棄物の混載は目視で確認可能であり、トラックの計量時及び埋立地に搬入された廃棄物の荷卸し時に職員が目視で判定するとのことでございます。疑問物質の精査とはどういう意味かとはちょっと分かりかねますがということで、想定していない廃棄物が搬入された際にどのような対応をするのかという質問であれば、契約締結前に性状及び分析証明書等を確認するため、基本的に想定しない廃棄物が搬入されることはない、また、契約時と別の廃棄物が搬入された場合は持ち帰ってもらうことになるということでございます。

続きまして質問の口、発生元、品名、積み込み品、保管場所等の情報予知、情報公開、情報共有についてどう考えるかというご質問についてでございます。産業廃棄物の性状やその排出工程等についてもっとも熟知しているのは排出事業者でございます。廃棄物処理法に基づき産業廃棄物の性状及び荷姿、それから保管時の腐敗及び揮発性状変化、それから石綿含有廃棄物の有無等について契約書に記載する必要があります。そのため、契約締結前に事業団職員が直接現地で確認し、また、有害物質濃度が基準値内の廃棄物かどうか専門の業者の分析証明書を確認し問題ない場合は契約締結することとしているということでございます。これらの結果は個別の会社の情報のため、そのまま全ての情報を公開することは難しいと考えるが、個別ごとに判断するものと考えておりますということでございます。また、どのような廃棄物が持ち込まれているのか、どのような目視検査をしているのかを含め監視委員会の委員等に確認いただくことも考えているということでございます。

続きまして問いのハの溶質試験方法、マニフェストと現品の相違判定方法というご質問でございますが、溶質試験方法の概要は廃棄物に廃棄物の10倍の水を入れ6時間浸透後濾過した水を専門の機器で測る方法で行うということでございます。また、マニフェストと搬入された廃棄物の確認方法は目視で確認するということでございます。

最後の問い二でございます。埋立までの受け入れ検査場所のスペースはあるのか、方法はどのようなのか、不合格の措置方法はどういうご質問でございますが、廃棄物は敷地内にトラックで搬入され、計量時に目視検査後、埋立地に運ばれ埋立地に搬入された廃棄物の荷卸し時に契約外の廃棄物が混入していないか再度職員が目視で確認すると、それから埋立地内及び管理棟周辺に専用の検査スペースを設ける計画はないが、埋立地内には十分なスペースがあり、また搬入台数は1日約20台程度ということで、荷卸し時の目

視検査は十分に実施可能であると。契約時にない廃棄物の搬入と契約違反が発覚した場合は搬入車両に再度廃棄物を積み込み、お持ち帰りいただくということにしているということでございます。一応県のほうはこういった考えで取り組んでいくということでございます。これに対して町のほうはどう考えているかということをお聞きになっていると思います。町のほうは町長答弁にありましたように、監視委員会あたりを設置し地元住民の方と一体になって、地域の住民、ひいては南関町のその施設自体が安全に運営されているかどうかを住民と一体となって監視していくと、そういうことで安全性を確保していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（本田眞二君） 10番議員。再質問を開始して下さい。

○10番議員（唐杉純夫君） 1番の道路改修に関して町長から先ほど答弁をいただいたですけど、私の要望というのはもう少し説明が欲しいと思っているんですよ。どういうことかと言いますと、これぐらいだったら答があまり平凡というか、もう少しなるほどなあと町の言うことも、なるほどなというのがなければ納得できないのではないかと考えておりますので、そのへんは町長はそのへんから先は、もう無理かもしれませんが建設課長かどなたかちょっと答をいただきたいと考えております。私の趣旨はおわかりでしょうか、もうちょっと説明が欲しいんです。町としての告発状がおきた、なぜそういうことが起きたのかというよりも、それが町としてどう考えておるかというところをいただかないと、言い方は悪いかもしれませんがこれでは答になつらんと。もう少し私がこう書いておりますけれども、誠意をもって答えていただきたいということを書いておりますけれども、それになっていないのではないかと思いますので、もう一度お答えをいただきたいと、再答弁といいますか、いう形で。

○議長（本田眞二君） 総務課長。

○総務課長（堀 賢司君） まず11月6日の告発状についてのお答えを町長がしました。熊本地検に町長それから総務課長ら4人を告発したと、その関係についてはなんら町に熊本地検のほうから通知もありませんので事実関係が把握できません。お答えすることができないというようなことです。その他の案件については現在肥猪私道の修復については現在係争中の事件でありますので詳細については差し控えさせていただきたいというのが町長の答弁をしたところでございます。今、唐杉議員のほうから、もっと誠意をもってお答えすべきでないかというようなことですが、事実関係だけ端的に述べさせていただいたところでございます。

以上です。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 1番の私の質問は、工事の返還を求めているけれども監査

委員がですね。それを拒否した根拠、それを説明していただきたいと言っておるわけですが、それは答になっていないじゃないかと申しあげとる。

○議長（本田眞二君） 総務課長。

○総務課長（堀 賢司君） 私道を公費で修復したのが焦点で、今、裁判係争中がございますけれども、あくまでも町は消防活動によって損傷したことを修復すべきという判断をしたものでございます。それに伴って、監査委員の勧告にもしたがっておりません。あくまでも消防活動によって損傷した分については町が責任をもって修復するというところでございます。このことが現在係争中の事件でございます。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 先ほど町長は、そういう告発があったことは連絡があつていないということでしたけれど、これは告発があつているというのは連絡はあるわけではないんですね。だからそれは当然だと思います。堀課長の言われたようなことで消火活動による道路が損壊したためにこれは修復をしたんだから、これは町の責任でやったことだからそれに対しては、もう何もいろいろ言うことはないというような指摘でございますけど、それは1番でそういうことならそういうことでもうよございます。

次に2番です。監査委員の勧告というのを非常に私は重いのではないかと感じておるわけですが、まあこれは町長は確かに重いというふうに言われました。そのあとです、重いんだけど重いならもう少しなんとかならんのかなと、その次に私は浮かんでくるわけですが、それについても、もう重いと言われたんだから、その答えしかならないのかなというように思います。ちょっとそれも舌足らずな感じがしなくはないですけど、しかしそれはそれで、そういうふうに言われるのであれば、それもやむをえないかなというように思います。

それから、この3番目の答は、まだいただけていませんですけど。修復工事というボードには肥猪3号線という写真が残っているけれども私道ではないかという点ですね。これは答ありましたですか、町長。

○議長（本田眞二君） 総務課長。

○総務課長（堀 賢司君） 町長の答弁の中に私道という言葉を使っておりました。あくまでも私道ということで町は認識しているところです。工事ボードに町道肥猪3号線と写真に記録が残っているかと、これはあくまでも工事名であつて通常その工事の名称を用いるものですが、そうでないからと言って誤りではないと町は判断しているところです。いずれにしても係争中の事件でありますので、そこらあたりでまたいろんな判断がされているものと思いますけれども。

以上です。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） それではこの4番目ですね、新聞報道では告発されて熊本地検は受理したとなっておりますけど、この事実関係を問うというには、ちょっと私これは抽象的な言い回しになったと思いますけども、これは事実関係は町は知らんことですよね。だからちょっと私の設問もおかしかったかなというようには思っております。この問うということに対しては、これは分らんよと言われればそれまでの話ですから、一応この私の質問の内容がうまくなかったかなというように思っております。いずれにいたしましても、ここで町側は消火活動による復旧であるから正当な支出だと、これは読売新聞にインタビューの結果でそういうふうに使われたのかもしれないけれども、そういうふうに使ってございます。それから、朝日新聞では南関町は告発状は手元がないのでコメントできないというようなことになっております。これも、告発状が手元がないというのは、これは当然のことなんですね。告発状があるわけないんです。これも私も勉強して分かったことなんですけど、そういうことのようにです。それで、この新聞の記事の書き方もそれなりの問題提起はしていると思いますけれども、それが全てな形にはなっていないというような感じがいたしました。それで、先ほど言われましたようにすでに刑事事件に発展している以上ですね、それ以降の再質問は私も避けるべきではないかというふうに判断いたします。

○議長（本田眞二君） 10番議員。今の発言の中で刑事事件に発展しているという発言がありましたが、まだその段階に至っていないということだろうと思いますが、その点は訂正していただきたいと思えます。

○10番議員（唐杉純夫君） ちょっと休憩をお願いします。

○議長（本田眞二君） 暫時休憩いたします。

-----○-----

休憩 午前10時40分

再開 午前10時41分

-----○-----

○議長（本田眞二君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま、私の発言が不適切であったのかもしれないかもしれません。私のほうを取り消します。それでは10番議員続けてください。10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） もうだいたい、これで俺の言うことはなかつじゃん。ただね、この後は検察の判断にゆだねることになるわけですよね。だからそれで結びにするつもりだったんだけど、議長がへんなこと言い出すもんだけんさ、それはあんた適切なあれがあったのかもじゃなくて、ちゃんと謝れよ。

○議長（本田眞二君） 申し訳ありません。私が発言を中断して、私の間違いでした。その点については、十分謝ります。すみません。そのうえで10番議員続けてください。

○10番議員（唐杉純夫君） だから今、私はこれだけのことを準備してですね、私も考えた、この件についてはね。どうしたらいいのか。町は町で告発されとる、その告発された結果っちゅうのは町民がみんな見とる。そういう中でね、じゃあどうやって町の立場を説明したらいいのか、考えたよ俺も。それでそういう結果で、そういう結論で、もうこれしかないなということで、この質問状を作っておるわけ。それに対してさ、何べんも言うても同じだけどさ。なんか、ムカムカしてきよる。まあ、繰り返しになりますけれども、これから町は検察がどういう判断をするか、それに対して、それによってどういう対応の仕方をされるかというのを待つ以外ないわけですからけれども、そういうところで私の質問を終わりたいと思います。

続きまして、産廃処分場の施設の運用についてというところでございますけれども、私は当初、菅原審議員、皆さんに申しあげたんですけど、これは産廃の受け入れ設備の運用についてということで質問したつもりだったのですが、ちょっと違うような答弁も入ってきているみたいですけど、順番に質問をしてみたいです。

監視委員会の役割ということでございますけれども、住民としての立ち入り権、混載品の合否判定基準、疑問物質の精査。疑問物質の精査ということは先ほど菅原審議員の言われたとの私の考え方と同じです。言葉の意味はそういうことでございます。ただ、住民としての立ち入り権といいますかね、これは菅原審議員も一応答弁ではございましたけれども、私としては常時立ち入りを許すのか、許してもらいたいということですね、そういうことなんです。そのへんについては、どのように考えておられますか。

○議長（本田眞二君） 菅原審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 今ご質問の常時立ち入りということでございますけれども、まだ監視委員会自体をどういった形でやるという煮詰まったところまで、まだいっておりません。ただ、先ほど申しましたように委員会というのはおそらく定期的な会議の開催とかそういったところも含めて毎日監視するとかそういう意味合いになるかどうかはちょっと分かりませんが、ただ一般の住民の方々につきましても、ご要望があったりとかなんとかがあれば、その施設に立ち入って見ていただく、あるいは職員の方に説明していただくなり、そういったことはできるような形で今後その委員会を設置する中で要望はしていきたいと思っております。今の時点で、常時と言われるのが常に毎日監視する体制という意味合いであれば、ちょっとそのへんはどうかなと思っておりますけれども、その希望によって立ち入りできるような形でやっていただけるように要望はしていきたいというふうに考えております。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） この監視委員会というのはね、ちょっと表を見る限りでは、県が県独自の形でやっていくというような理解にもとれるわけですがけれども、今の

話はそうでもないわけですかね。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 普通考えれば県イコール事業団かなと思うのですが、要は運営する立場とそれを適正に行っているかどうかを監視していくということであれば、ここに唐杉議員が書かれているように県と町の立場は違うというようなところもあります。今、そのへんも一応議論の1つになっております。その委員会の委員のメンバーの中に事業団あたりを入れるのか、あるいは事業団はあくまでも運用する立場ということで監視される立場ということで、監視委員あたりからの意見なんとかに答える立場という形で入っていただくのか、そのへんも含めてまだちょっと結論はでておりません。そういったことで、県独自といいますか要はその施設の安全性を確認していく、あるいは安全を図るためにどうしたらいいかという意見を申し上げて適正な運営を図っていくものを、最終的には監視していく立場の方、ですから最終的には南関町だけではなくで和水あたりからも入っていただくような形になるのかなとも思っておりますけれども、住民それから場合によっては専門的な知識を持たれた方あたりにも参画いただいて適正な運営ができるようにみていくという立場の委員会ではないかと考えています。ちょっと説明があやふやになりましたけれども、そういったものにしていくのが委員会ではないかと思っております。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 菅原さんが言われるのはよく分かるんだけど、私が一番心配しているのはね、これからは県じゃないんです。この監視委員会というのはね。だから監視委員会をどこが作るかということも含めますけれども、これは町が主体的にそれは和水と一緒にやってもかまわんです。だけどね、そういうところで一緒にやっていて、そしてその地域の住民の人たちを納得をさせると、納得してもらおうというような作業、それは必ず必要になってくるわけです、ですからそういう意味で、私は県が県がということは非常に嫌いです。これはもう今まではそれでよかったかもしれんけどね、これはもう通用しませんよこれからは、だから町がどう考えるか。地域住民のことを思ってね、地域住民はそれは言い方は悪いかもしれんけど、なんも分からっさんかもしれん。それをサポートしていくのは町ですよ。町のそういった菅原さんの実務の担当者です。それをよく考えておいていただかんといかんと思います。

その次にまいります。事業団は産廃を埋立さえすれば事業は成り立つわけです。そうでしょう。埋め立てるのが彼らの仕事なんです。ところが、町の立場はそうじゃないです。町は地元住民の人たちの安全を保障してやらないかん。それが町の役割です。だから今後は大きく違ってくるんですよ。それで、先ほど申し上げましたけれども、分からないところは県に聞け、そして聞いたのを答えてきた、これが今までですね。それはもう通用

しなくなりますよって先ほど申しました。そういった意味で今後は県じゃなくて町独自のそういった判定基準、分別基準そういったものがなければならんと思うんだけど、そういった作成の準備を今やっているかどうかということをお聞かせください。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 今申されたのは県が作る基準じゃなくて町独自の審査基準というかそういったものを作る準備をしているかというご質問であれば、町独自の判定基準というかそういったやつを作る準備というのはしておりません。ただ、どこの県でも一緒でございますけれども、処理場の放流水といいますか、そういったやつの中の基準あるいは地下水の基準、そういったやつの中の基準あたりを確認しながら、まだ県から示されておりませんが、そういった基準が示された際にはどうかと。たとえば熊本県の場合にはまず大本になるのが水質汚濁防止法とか環境法とかの基準とかいろいろございます。それに熊本県の場合には、菊池川流域の放流水の基準ということで上乗せ基準があったりとかしておりますので、他県と比べて、そのへんの基準がどうなのかというやつを今後見てそのへんの意見を申していくということにはできるかと考えておりますけれども、町自体で判断基準をもうけるというか、そのところは今のところ考えておりません。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） そこがちょっと気に食わんとこで、おりませんで済むんじゃないだろう。おらんならおらんでしていかないかんのだろ。それを町として安全にのっとって住民をどうやって保護するか、そういうことをやらんといかんやないかって言いよるわけ、それはしておりませんで、それは県でお伺いすればそれでいろんな答がでるかもしれませんけども、ということじゃなからう、私は言っているわけですよ。それはね、今そげんかことば言うのは私は非常に残念だし心外でした。そうじゃないはず。もうちょっとこげんか言い方いかんかな、審議員やっぱね仕事に対して気構えを持ってくれんですか。あなたの体にはね米田のあるいは大場、胡麻草の人たちのね、期待がかかるとよ、それを十分に認識して欲しいと思う。それで、こういった質問をしとるわけ意地の悪い質問かもしれんけども。私はそう思うわけ。ですから、先ほどとダブリますが、これでは監視委員会は県の公共管理室が作ることになっているんですよ。窓口というか、この中ではね。公共管理室が作ることになつとるわけね。それは横並びでいいですわい。町もちゃんとやってよねって言いよるわけ。どうですか課長。

○議長（本田眞二君） 住民課長。

○住民課長（木村浩二君） 今おっしゃったのは監視委員会というのは県が作るというふうな形でおっしゃったのかとも聞こえましたが、監視委員会というのはあくまでも町と事業団と県で作るといふようなものだと私は認識しております。

以上です。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 課長。監視委員会というのは本来は、本来の役割は厳密に考えると県じゃないんですよ、地元なんです、そうでしょう。地元はそれをどうやるかということで始めて県の今までのデータなんか乏しかけながら、そのデータをうまく使う、そういうようなことで県が始めて登場せないけんかもしれんけど、本来は町ですよ。イコール住民です。住民の立場をどうやってここで組み上げていくかというのが町の役割ですよ。それだけは、ちょっと誤解のないように考えていただかんといかんと思う。それがそうじゃないと言われたらね、それは反省してもらわんとでけん。どうですか。

○議長（本田眞二君） 住民課長。

○住民課長（木村浩二） 私が町と申しあげましたのは、住民の方も含めての監視委員会ということでございますので、ただ町ということだけじゃなくて地元の住民の方たちの代表も含めたところでの監視委員会というふうな認識でございます。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） それを含めてもね、住民の人達は言うては悪いけどね分からっさん人が多かでしょう。専門的なやつがだんだん入ってくるとね、なかなか難解になってね、理解ができなくなる。それを代表して、これはこうだああたかいうように判断するのはね、町じゃなかつね、住民も含めたちゅうが、含めてもいいですたい。だけどやっぱ町ですよ。町がそれを主体的にどう考えるかということは大事になってくつとです。私はそげん理解しとつとです。だけん、これは木村課長、菅原審議員が、もちよつと私の意見と違うかも知らんけどね、あとでちよつと反芻してください私の言つてることが正しいかどうかというのはね、これからはですね本当に大事になってきます。この監視委員会の役割というのは、ただ県がやるのを黙つてついて話を聞けばいいつていうことじゃなかですこれは。はっきり言うておきます。この受け入れ監視が必要かどうかのこのことについては、まだ今から県も入れたところによかですけん、県も入れたところで話をするということで、それは理解しましたということでよかです。しかし、それもちよつと私に言わせたら不満があります。ありますけど、それはそれでもうちよつとはしよります。監視委員会は産廃の受け入れベースだけに絞つて質問する予定にしておるわけですけれど、そもそも国・県の産廃廃棄物の政策というのは全部性善説ですね。性善説お分かりですかね。人間というのはもともと悪いことはしないんだと、だからすべからくそういう問題については自然の理に任せておけばそれで十分なんだという考え方ですね性善説というのは。しかし、むしろ産廃に関しては性悪説が大部分を占めていると思います。なんでも事業団の言うことをそのまま受け取りますと、なんで

もオーケーになってしまう。そういうことではいかんわけですね。それは当然ですがけれども、それじゃまずいわけで、ですから監視委員会というのを意味づけをピシヤツとして町独自のものでね、やっていかなくちや住民に非常に困ったことになってしまいますよと言っているわけです。県は環境保全協定書とか監視委員会とかどういうものになるか知りませんが、それは県は作ってしまえばおしまいなんです。お分かりですか。作ってしまえばおしまい。おしまいであつてもらっちゃ困るって言ってもね、県は困らんです。困りません、県は。私は無防備にそういうことで埋め立てられてしまうということに対して、対策があるのかという次の質問を準備しておるわけですがけれども、それについては先ほども菅原審議員言われましたように、これは県に話を聞いてそして監視委員会はじめいろんなものを作るといふようなことをこれから考えたいと思いますという答のようだったからね、それ以上は詮索しても同じことですから。要するに、県はそのくらいしか考えとらんよと言っているわけですね。ちょっと長くなりよりますけど、混載品の合否の判定基準、これは先ほど菅原審議員は混載は原則としてないんだという答弁だったですね。それは本当ですか。

○議長（本田眞二君） 答弁の番ですが、暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午前11時03分

再開 午前11時12分

-----○-----

○議長（本田眞二君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問、答弁の途中でありましたのでこれを続行します。住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 混載品はどうなるかということでご質問でございます。

これにつきましては、熊本県のほうが処理施設の維持管理に関する基準というものの中にうたっております。この基準というのは産業廃棄物指導要綱第9条の規定により処理施設の維持管理に関し必要な事項を定めるといふようなところの中で、混載の禁止ということであつております。ちょっと読み上げさせていただきます。

収集運搬または再生輸送する同一の車両には、種類の異なる産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物を混載して運搬してはならない。ただし、次の産業廃棄物を運搬する場合はこの限りではない。ということで3項目うたわれております。

1 番目として、ガレキ類、金属屑、ガラス屑、コンクリート屑および陶磁器屑を運搬する場合。

2 番目として、産業廃棄物を運搬する車両の荷台に仕切りを設けて廃プラスチック類およびゴミ屑を運搬する場合。

3 番目として、産業廃棄物を運搬する車両の荷台に仕切りを設けて木屑、紙屑および

線維屑を運搬する場合は例外ということで、うたわれております。

以上でございます。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） はい、分かりました。次に移ります。疑問物質の精査ということに入りますけれども、疑問物質に大きなものがいくつかありまして汚泥と廃プラスチック、煤塵、そういったものが疑問物質に入っていくわけですが、そしてその有害物質には工場から排出される産業形態によっていろいろ異なります。そういったものに対しての精査というものの必要性とか考え方とか、それについて町はどう考えているかを示していただきたいと思います。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 町が今言われた物質あたりの精査をどう考えているかということですが、申し訳ありません、まだ今の段階でどういうふうに行っていくと、町のほうが関与してどういった形でそういったことに関与していくということで、はっきりとした方針というのは申し訳ありませんが今の段階では出しておりません。以上でございます。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 煤塵とかは、特に有害金属とかダイオキシン類なんかがかたく含まれるわけですね。そういったものをチェックをしておかないと後々えらいことになってしまうわけですが、そういったものを今のところではマニフェストで逃げるということになっておるわけですね。マニフェストで逃げるばかりでは、どうにもならんというように思っております。それから、金属屑とか廃プラスチック類、そういったものの中には廃ドラム缶、それから廃石油缶、廃プラスチック缶といってガロン缶で灯油とか何とかば運ぶやつがありますね、ああいったやつがあるんですけど、これは今はどけんかふうになつとですか。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 申し訳ありません、持込みされる品物類、詳細がどういったやつということまで、ちょっと話しておりませんし、確認しておりません。ただ、先ほど申し上げました県の施設維持管理に関する基準とかというやつの中にも保管場所の管理とか、どういったやつはどいったかたちで保管して持ってきたとか、そういったやつもうたわれているようでございます。今後そのへんのところについては、また勉強させていただいて専門的なところもあると思いますけれどもこれから先の勉強になると思っております、今の時点でそのへんの詳細について町としてどうするかということについては専門的知識が今の段階ではございませんのでこういったご回答しかできません。今後言われた、今ご質問があった内容等については十分勉強させていただ

いて安全な施設管理ができるように意見を申しあげる、あるいは一緒になって施設の管理をしていくと、監視をしていくというようなところで対応させていただきたいと思っております。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） その時にですね審議員。やっぱ町としてはどう考えるよというのが必要だと思います。ただ、県にお伺いをして県がこういうけんが私もこう思いますじゃ、本当言うとこれじゃだめですもんね。だけん、そののところがよく予習をしていただいて、そしてこういうことはどうするかというところまでいかんと住民に対して非常に迷惑なことになってしまいますので、そのへんはよろしくお考えください。

それから、ロに入ります。発生元、品名、積み込み、その件ですけど当該の事業所の産業形態によって有害物質というのはだいたいどんなものが排出されるというのは分かるんですよね。そのへんは審議員知つとんなるでしょ、だいたいそういうもんだらうというのは、だからそののところがそういうのを持ち込もうとした場合ですね、あらかじめその業者、事業者に言ってそれはどういうものかというようなことをつぶさに調査しとかんといかんわけですよ。そのへんについては、やっぱこれは県じゃなかですよ、町がしていかないかん。そののところが良く考えておってください。今のはよかですか、それで。

あとは溶出試験方法とかマニフェストと現品が違った場合にどういうふうにするのかというハに入ってます。処分場で受け付けに到着した産廃は、もう直接処分場のほうにおいやってしまっ、そしてそこで検査するようなことを、さっき審議委員は言われたけど、あれはまたとんでもないことじゃないかと私は思いよるわけなんだけど、そのへんについてはどういう見解だろうか。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） まず、そのまま入ってきたやつをそのまま埋め立て場所に持っていくということじゃなくて、一応その場で目視、搬入された品物を確認すると、ただあのおそらく唐杉議員が言われたいのは全ての品物についてその埋立場所に行く前に荷卸しをして、展開検査なりなんなりやるぐらいの慎重さが必要じゃないかということも含めてのご指摘かと思えますけれども、入ってきたやつを全く何も見ないということじゃなくて、一応その契約書の内容、持込みをされる内容あるいはマニフェストの内容あたりと品物がどうかということを、まず持ち込まれた受付の場所で確認して、そのあとスペースがあまりないということで実際の埋立場所に行くと荷下ろしをすると、した段階ですぐ埋め立てるということじゃなくて、そこでは展開検査といいますか荷物を持ち込まれたやつが適正かどうかというのを確認をするということでございます。それと、それ以外に不定期的に抜き打ち検査的に埋め立て場所に、場所がどうなるかちよっ

と私も今のところはどうなるか分かりませんが、抜き打ち検査的にその品物を降ろして確認させるというような、そして性状検査なりなんなり入っている物質の検査あたりをやるというようなところも考えられているようでございますし、それで適当かどうかというのは今の段階で私個人としてはうまく言えませんけれども、まず先ほど言われたように受け入れる側の事業団のほうも契約を結ぶ際には、事業所のほうに出向いてその品物がどういう品物で、どういう性状でその検査結果がどのようなものかを、まず確認したうえでその事業者と契約を結ぶことになると思います。そういった中で適正な品物であると、埋め立てに適しているというものでなければ契約も結ばれませんし、そういったやつを確認したうえで契約を結ぶということで、なおかつそのご持ち込まれたやつがそれと同じ品物を持ってきているのかどうかという確認をされるということで埋立の安全を確保していかれると思いますので、町がどうかということにつきましては、そのへんのやつについても、その目視とか埋立あたりでの展開検査あたりには立会いなりなんなりを不定期的ではあるかと思えますけれどもさせていただいて、その辺の状況の確認をしていきたいというふうに思っております。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 審議員、私はね、なんでんかんでん検査せんなら通さんよとはいいよらんね。たとえば1日に100トンとすると5トン平均で20台来るわけですね。20台来るやつを、たとえば二のほうにも入っていきますけども、そういった物をどこでチェックするかい、そんなやつが現実できっとかいと言うような問題ですよ。それに対しては、そこそこ方法は考えられないことはないわけですけど、なんでんかんでんそれをしよったらきりがなかけん、だけん私はそこまでは言おうとは思ってらんです。やっぱ県も、県というか、県というところとちよつといかんけど、そうですね何と言うかな、ある程度のことは私も分からんじゃなかです。分からんじゃないけど、しかしそれはそれとして考えないかんのじゃないかなというように思いますので、混載は全てのものでそういうふうには考えてはいないよと、しかし、ある程度のことはやっぱり考えておいていただかんと住民の安全保持ということにはつながらないよねというようなことを念のため申しておきたいというように思うわけです。

溶質試験とマニフェストとの現品の相違の判定方法ですけど、先ほど10倍の水で薄めて検討するとかいうように言いよなったけんですね。先日も全協で話をされたような浸水の処理装置は逆浸透圧膜でやるというようなことでした。それはカルシウム中和槽以降のプロセスをプレートアンドフレーム型の浸透圧となることによってかなり作業性が大幅に削減されるわけですね。そのために、じゃああとの軽減される業務については、もう少し地元のために監視委員会を立ててもらって、それをちゃんとやるように考えてよねというようなことは言えるようになったと思っておるわけです。そこで、

今後は受け入れの時の受け入れの判定、そういったものが非常に問題となってくるはずですから、そのへんもちょっと考えておいていただきたいと思います。

それから受け入れ検査室ですね。検査室はこれは県ばかりどうのこうとか言うたっちゃ、これは県じゃないと分からんやつですけど、検査室なんかはどげん考えとっとやろうか。分からんですな。分からんでよかです。分からんけれども分からんに、そこは聞いてください。

それから、不合格品がもし出たときは、どう措置するかというようなことも考え方に入れておいていただきたいというように思います。それから、受け入れ検査に重点を置く場合に、これまで、よその産廃事業所をどのくらい見てきておるかということ聞きます。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 今のご質問はほかの産廃の処分場の受け入れ状況を見てきたかということですが、実際に最終処分場の受け入れ状況というのをまだ見たことがございません。今までの処分場を建設するにあたり、どういった処分場の施設があるのかということで建設中の処分場とか、出来上がってすぐの処分場というのを何カ所か見ております。それと、宮崎あたりで実際に受け入れされているところも見ましたけれども、たまたま行ったときに物が入ってきているという状況の場所に遭遇したことがございませんので、実際に受け入れ検査をどういった形でやられているとか、そのへんの内容について自分の目で確認したことはございません。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 今後、危機管理が全てになってくると思うけれど、そのへんはようと審議員も課長も一緒ですけどね、ようと、自覚を持って調べていただきたいと思う。そこは私の要望です。受け入れ検査以外に、よその産廃処分場はどけんなつとるか、こげんなつとるかというのはというのは今までずっと見てきたらと思うけれどね、これからはそれだけで終わらんけんね。それで、これは個別になりますけど毎日100トンの産廃を持ってくるとすると1台平均で5トンとする、その中で受け入れ検査が必要じゃないかと思われるやつがだいたいどのくらいあるというように想定していますか。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 申し訳ありません、そのことを今まであまり考えたこともございませんし、どのくらいかというのはちょっと今の段階で想像が付きません。これにつきましても、いろいろな処分場なり、あるいは県あたり確認したうえで少し勉強させていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） これも今後の宿題として、とっておいていただきたいと思います。業者さんのほとんどはマニフェストというものを非常に重視しておりまして、このマニフェストがあるけんが、たいがいのは通るといようにしか思うとんなはらんです。それは我々の立場から言うととんでもないことですから、そこをどうするのかというのをよく考えておいていただきたいと思います。

それから疑問の物質が出てくるとします、そういった疑問物質はどの程度の時間がかかるか、検査にですね。そのへんについて考えたことはあるですか。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 今言われる疑問のある物質というのが、たとえば持ち込まれておそらくほとんどのやつが持ち込まれた時点で、その疑問のある物質というのはお持ち帰りになるのではないかと思います。契約書の中身に合わない物質というか品物を持ってこられた場合がそういった状況が出てくるんじゃないかと思えますけれども、そういった際には全てお持ち帰りいただくと、まずそれが前提だと思います。そのあと仮に埋め立てるとして、検査あたりの時間というのは今の私の中ではどのくらいという知識は持っておりません。そのへんについても勉強させていただきたいと思えます。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 私の言いよることはいちいち聞いておったら仕事にならんということになると思います。それは事業団の立場から言うとそうなるわけです。ですけどそこには地域の住民の方が心配しておらっしゃるわけ、大丈夫かいというような、常々心配していらっしゃるわけ。そうした人がおられるということをつつも思いながら、そして仕事をしていただきたいと菅原さん思うわけですね。そのへんをよろしくお願ひしたいと思えます。時間がもう少し残りしましたがけれども、今後監視委員会というものの、今後の予定ですね、それは県のあれによるとだいたい3月頃までには出来上がるようなことを書いてあったですね。それが、どの程度のあれになるか、そればちょっと聞きたいんだけど。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 前回の全協のときにある程度の目安ということでは言われたと思います。県のほうも年度内で環境保全協定、今申されました監視委員会の内容、それから振興策、これを含めて保全協定どれが先ということではなくて、3つそろった段階じゃないと地元も納得されないし、そういった協定あたりを結ばれないということで、今、唐杉議員が申されましたように年度内にそれができる方向で、今、調整を進めていると言う状況でございます。いつごろと言われてますと年度内にはそれが終わるような形で進めていきたいというようなことで現所在地元あたりもこれからそのへんの内容も

含めて説明会等も開かれていくことと思いますけれども、目標はあくまでも年度内にそのへんのところをまとめて締結していくという方向で現在調整しているところでございます。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） それはくどいんだけど、県の立場で言うとそうなるんだけど、町の立場で言うとやっぱり同じですか、イコールですか。県と町は違うとおもうんだけど、何べんも言うけど。

○議長（本田眞二君） 住民課審議員。

○住民課審議員（菅原 力君） 一応、協定あたりにつき、あるいは振興策等につきましても、県が先走る、あるいは町が先走るということじゃなくて、やはり両方足並みをそろえていかなければいけないと思います。ちょっと専門的なところについて、地元との協議等も例えば保全協定の内容、監視委員会の内容につきましても、まだ地元との協議あるいは説明等がでてくると思いますので、町としましてもあわてて早い段階で作るのがいいのかという事を含め念には念を入れということであれば、同じ歩調で進めていってかまわないのではないかと、だから年度内にはそういったやつを終わらせて新年度に例えば地域振興策等に含めても新年度から実施していけるような状況を作っていければというふうに考えております。

○議長（本田眞二君） 10番議員。

○10番議員（唐杉純夫君） 浸出水の処理設備、今まではいろいろカルシウム中和沈殿をした後にいろんな脱塩層ですとか、イオン交換膜とか活性炭とか、そういうのがあったのは、もうカルシウム脱塩が終わったあとは、みんなそれは今の逆浸透圧膜で全部代用するようになるようになったわけですね。それによって、非常に大きな効果というか省力効果があるわけですよ、それに対しては県も少しは、これはどうせプロポーザルシステムだから、国が県がですねそれをどういうふうにしてあれするようになったかというようなことが出てきますけれども、しかし大分楽になっているはずですよ。だからそれを、今度は処分場の合理化というか、処分場のそういったものに向けるように考えておいてもらいたいと思います。もちろん、そういうことになるとは思いますが、どういったものを仕事として増やしていくべきかというようなことは、それは県も安くなったけんがああよかったでね、その分を地元に戻元せんわけにやいかんと思います。だから、それはそれで十分その辺の配慮はしていると思いますので、あとはどういうふうにかえるかということになってまいります。

○議長（本田眞二君） 時間がありませんので、まとめてください。

○10番議員（唐杉純夫君） 話しながらまとめるつもりだけながら、もうよかです。あとは、ああせからしかというふうに言われたかもしれんけど、菅原さん私はここで反

対派に回って少ない人の中で産廃を反対をしたわけですけど、そういった者の中でどうしてもこれだけは容認をした人にも守ってもらわんといかんようなやつを私は言っております。町民の方が、どれだけ心配をしてそれを賛成のほうになってしまったのかというようなことをよく考えて、そしてこれからは住民のみさんのためになんとか頑張っているという方向にエネルギーを費やしていただきたいと思うわけですね。

○議長（本田眞二君） 時間が0になっておりますので。

○10番議員（唐杉純夫君） はい。これは菅原審議員に言うことではないかもしれないけどもよろしくお願いをいたします。

以上です。私の質問を終わります。

○議長（本田眞二君） 以上で、10番議員の一般質問は終了しました。

以上で、本日予定していましたが一般質問は終了しました。

明日14日は、午前10時に本会議場にご参集ください。

本日は、これにて散会します。起立。礼。

お疲れさまでした。

-----○-----

散会 午前11時43分